



World Wide Views in Japan NEWS LETTER 02

この度は、World Wide Views in Japan の活動にご支援をいただき、誠にありがとうございます。

World Wide Views in Japan の開催まで三ヶ月を切り、当日の具体的なスケジュールなど詰め作業が着々と進んでいるところです。ニュースレター第二号では、これらの準備状況についてお伝えすると同時に、アドバイザーボードメンバーからのメッセージを掲載しました。

今後ともご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

World Wide Views in Japan 実行委員長 小林傳司（大阪大学）

■ この1ヶ月のおもな活動（2009年5月～2009年6月）

- 2009年5月～ WWV の企画と連動した大学院生の授業を開始しました。【報告2】
- 5月28日 「地球温暖化、あなたはどうか考える？～デンマーク発、国際ネットワークの試み」と題したサイエンスカフェを、京阪中之島線なにわ橋駅のアートエリア B1 にて行いました。
- 5月29日 実行委員およびスタッフで現地視察を行いました。【報告3】
- 6月13日 科学技術に関する参加型テクノロジーアセスメントをテーマとした「科学技術コミュニケーションデザイン・ワークショップ」において WWV の企画を説明し、主に科学技術社会論の観点から議論を行いました。
- 6月16日 民主党地球温暖化対策本部総会にて WWV の企画を説明しました。【報告1】

■ 報告1：民主党地球温暖化対策本部総会にて、WWV の企画を説明してきました

6月16日、民主党地球温暖化対策本部総会（衆議院第二議員会館にて開催）に、実行委員長の小林傳司と副実行委員長の柳下正治が招かれ、WWV についての説明を行いました。当日の議題は（1）World Wide views in Japan について、（2）ボン COP15 準備会合の内容及び評価について、（3）わが国の温室効果ガス排出削減の中期目標についての3点で、（1）では WWV の企画のみならず、昨年開かれた OECD の Global Science Forum のワークショップ（小林実行委員長が参加）での議論を紹介し、科学技術と社会の関係について話題提供しました。会の終了後、当日司会をしていた福山政調会長代理からは、「結果についてもここにきて報告して欲しい」という要請とともに、当日の見学も検討したいとのコメントをいただきました。



World Wide Views in Japan NEWS LETTER No.2





■ 報告 2 : World Wide Views in JAPAN の企画と連動した授業を行っています

大阪大学コミュニケーションデザイン・センターでは、大阪大学の教育目標の一つである「デザイン力」を育成するために、全学の大学院生を主たる対象としたコミュニケーションデザイン科目を開講しています。この授業の一環として、WWV の企画と連動した大学院生の授業（科学技術コミュニケーションの理論と実践）を開始しました。

授業参加者の一部は WWV 当日、学生スタッフとして参加します。また、授業の一環として WWV の試行を行う予定です。



■ 報告 3 : 現地視察を行いました

5 月末、実行委員会としての正式な現地視察を行いました。WWV の会場となる京都市勧業館みやこめっせは、平安神宮にほど近い美観地区に位置します。今回は 1400 平米ある展示場を貸し切りで使用します。この会場の半分に市民参加者 100 名がグループ別に議論を行うテーブルを、もう半分に受け付け、傍聴席、取材席などを配置することを計画しています。

現地視察では、9 月 26 日当日は、全員が同時にビデオ映像を視聴したり、またインターネットを通じてリアルタイムで投票結果を世界各国で共有する必要があることから、プロジェクターの配置や無線 LAN の状況など細かな点についても動作確認を行いました。





■ アドバイザリーボードメンバーからのメッセージ

World Wide Views in Japan 実行委員会では、有識者四名によるアドバイザリーボードを設置し、会議の企画・運営について、様々な角度からのコメントを寄せていただいています。

今回のニュースレターでは、アドバイザリーボードメンバーの1人である浅岡美恵氏（気候ネットワーク代表・弁護士）から、次のようなメッセージを頂戴しています。

温暖化を止めることは人間活動のすべてにかかわる。政治の意思にかかる問題である。市民の声を政治に届けることが重要なのだが、市民の声とは何か、世論とは何か。似た時期に同じテーマで無作為抽出による世論調査の結果が異なることがあるのは、よく知られている。

日本の中期目標をめぐる二つの世論調査が行われ、その結果が全く異なっていた。一つは政府によるもので、日本の2020年目標について、1990年比+4%から-25%まで6つの選択肢を示し、先に負担してもよい額を聞き、選択肢を選ばせた。半数近くが負担していいのは1000円までと回答し、政府の選択肢についての説明によればその額は②（+1～-5%）にあたるが、削減目標の回答では選択肢③（-7%）に山があった。他方、NGOが独自に行った調査では、6割以上の方が-25%以上を支持し、野心的な目標が日本の経済にプラスと回答した。支持政党との関連性はみられなかった。

政府の調査は、基準年を2005年とし、目標と負担額を連動させ、質問の順序など、明らかに甘い目標に誘導しようとするものである。他方、NGOの調査では負担額はないが、素直な反応を見ようとしているように見える。

家計の負担額は企業のコスト意識と同様に、市民の判断材料として重要であろう。だが、温暖化対策のプラス・マイナス効果や被害のコストの算出は難しい。「正確な情報、またそれを入手する手段をもたない人民の政府は道化芝居の序幕か悲劇の序幕であり、あるいはその両方以外の何ものでもない。情報をもつものは持たないものを常に支配する。」アメリカの第4代大統領マディソンは、「それゆえ、自ら統治者となろうとする人民は、知識の力により自らを武装しなければならない」と語った。情報は、それを集め、分析し、理解するプロセスと議論が必要であり、NGOの役割もそこにあると考えている。今回は別のプロセスが予定されているが、新たな可能性に期待したい。

浅岡美恵（気候ネットワーク代表・弁護士）





■ 今後の広報について

皆様へは、今後月に1回程度、ニュースレターをお送りすることにより、進捗状況をご報告していきます。

また、「World Wide Views in JAPAN ～日本からのメッセージ：地球温暖化考える～」の公式ウェブサイト (<http://www-japan.net/>) でも適宜進捗を報告しております。

ホームページは、9月26日のイベント開催地・京都にちなんだデザインとし、季節にあわせて彩りも変わっていきます。こちらの方もあわせてご覧いただければ幸いです。

2009年6月29日発行

【問い合わせ先】

大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（八木）

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町 1-16

TEL/06-6850-6631

FAX/06-4865-0121

www-japan@cscd.osaka-u.ac.jp

World Wide Views in Japan NEWS LETTER No.2

